



高学年編

— 仕切り直しのよい機会 —



筑波大学附属小学校 教諭
青山由紀



四月は、どの学年の子ともたても新鮮な気持ちになるときです。私は、この時期を、仕切り直しをするよい機会と捉えています。初歩的と思われるようなことでも、繰り返し指導することが大切ですが、学年が上がるほど、子どもたちは「今さらこんなこと」と基本的なことをおろそかにしがちです。四月でしたら、子どもたちはいろいろなことを受け入れようとする心の準備ができています。このタイミングをぜひ生かしたいものです。

詩を使った「授業びらき」

国語の教科書の表紙をめくると、扉（ページ目）に詩が載っています。五年は「銀河」、六年は「創造」という詩です。この詩を使って、私は国語の「授業びらき」を行っています。

この詩をどんなふうに音読するか、考えて書き留めている。

児童のノート（「銀河」の視写）

銀河（水）①
あめくき
星たちが②
ぶつかり合いの重なり合い③
河のように光っている④
牛乳をこぼしたようにも見えらるから⑤
乳の道⑥
とも言うそうだ⑦
じつちも⑧
いい名前だなあ⑨
あける⑩

【例】

5～6行目に着目させ、「乳の道」の部分に、自分だったら何という言葉を入れるか考えさせます。隣どうして意見交換をさせ、その様子を見取ります。発言力・発想力だけでなく、積極的に考えようとしているか、常に受け身の状態か、といった学習姿勢が分かります。考えることをおっくうからず楽しんでいるかが大事なチェックポイントです。

まずは、詩を視写させます。視写させる
と、筆速を含め、子ども一人一人のことが
よく分かります。例えば、この数行の中に
漢字の間違いがあれば、漢字が苦手なのか
もしれません。原稿用紙に書かせると、句

読点、かぎ、行替え、一行空きなどが正し
く書けるかどうか確認できます。このよう
な基本的なことを確認するとともに、子ど
もの発言力や学習姿勢などを見取る質問を
投げかけます（左の【例】参照）。

「新聞」の帯学習

五年生の四、五月に、教材「新聞を読む」を学習します。これをきっかけにして、その後、六年生の終わりまで、新聞を活用した帯学習を行っています。

まず、授業の中で、記事のスクラップのしかたを学習します。記事を貼り、新聞名、発行日、内容、選んだ理由、感想を書きます。最初は、一日の新聞の中から、「気になる記事ベスト3」を選ばせます（下段ノード参照）。そうすると、普段読まないような記事もくまなく読むことになります。

次の段階として、私は五月五日（こどもの日）の社説を活用するようにしています。こどもの日は、多くの新聞社が、社説で子どものことを話題にしています。

例えば、平成二十七年五月五日の社説は、「こどもの日 地域のおせっかいが大切だ（読売新聞）」、「子どもの貧困―大人一人ひとりが動こう（朝日新聞）」、「こどもの日ゆつたりと、はぐくむ（毎日新聞）」、「社会全体で子育てを支えよう（日本経済新聞）」などでした。子どもへのメッセージや、子ども目線で書かれた大人への要求など、どれも身近な話題といえます。社説は難しいと思われがちですが、一文が短く、

事実と意見の区別がつきやすいというよさがあります。事実を踏まえたうえで自分の意見をもつという学習に適しています。一度読んだ経験があると、その後も「今日は何の記事かな？」と目を向けるようになるものです。

また、投書欄の見出しを空欄にして、どんな言葉が入るか考えさせる学習を行うこともあります。友達と意見交換をさせると盛り上がります。

授業でこれらの学習をした後は、帯学習の扱いで、日直が新聞記事についてスピーチをします。日直が選んだ記事をみんなが知っているわけではないので、スピーチをする際は、記事の内容を伝えるための要約が必要となります。要約は四年生のときに学習していますが、授業で扱うだけでは身につけません。帯学習として扱うことで、繰り返し学習することができます。

また、記事に表や図が入っている場合は、書画カメラを使って、全員に見せるようにします。資料をどのタイミングで見せると効果的か、回数を重ねること、子どもたちは自然と考えるようになります。

そして、スピーチの後は質問タイムです。人の話を聞いて質問したり、感想を言ったりする力は、普段の授業の中での発言とは

長い記事は折り畳んで貼る。

気になる記事Best3

1面 起業
理由：起業はふつう、経験を積んだ大人がするものだが、18歳くらいの高校生でもできるなんて、おどろいた。

2面 路線バス暴走100メートルパーポート突っ込む
理由：私達が普段乗っているバスが、最近何日も事故をおこしていて、死亡者も出ていて怖いと思う。だから

3面 視覚障害者野球チーム
理由：視覚障害者のための野球があるって、何人もの人が参加しているのにおどろいたから

内容：高校生がインターネットを中心とした会話をよく上げた
感想：私は、高校生でも起業ができることにおどろいた。なぜなら、起業は経験を積んだ大人がするものだと思っていたから。私もいつか起業してみたい、少し思った。

▲児童の新聞スクラップノート「気になる記事ベスト3」

社説

社会の出来事に対して、新聞社の立場で論評を加えたもの。

事例(3つ)

1 児童福祉週間の標語
2 考えインターネット
3 事例

結論

筆者の主張

▲児童の新聞スクラップノート
5月5日の社説の構成を分析したもの。
丸付き数字は段落番号。段落ごとに事実と意見を区別している。

異なる力を必要とします。実際に質問する経験を重ねなければ、なかなか養えない力です。最初のうちは、スピーチの内容から外れた質問が出ることもあります。教師が例として質問してみたり、友達のよい質問を聞いたりしているうちに慣れてきます。質問する機会を全員がもてるよう、日直のように順番に回すこともあります。

新聞の帯学習は同じことを繰り返しているわけではありません。要約する力、資料を活用する力、スピーチや質問する力、比べ読みする力など、さまざまな力を養います。年間を見通してさまざまな学習とリンクさせていくと、帯がただの帯ではなく、全てをつなぐ帯になるのです。

(談)